

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和5年度病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

令和5年度病害虫発生予察注意報第5号

- 1 作物名 キャベツ
- 2 害虫名 チョウ目幼虫 (モンシロチョウ、ハスモンヨトウ)
- 3 発生地域 沖縄本島 (南部地域)

4 注意報発令の根拠

沖縄本島 (南部地域) における11月のほ場調査の結果、チョウ目幼虫の寄生虫数は0.92頭/株 (平年: 0.13頭/株)、発生ほ場率60.0% (平年: 26.0%) となり、平年および過去2年間の推移と比べ多発生となった (図1、図2)。今後は暖冬の予報もあり、発生の増加が懸念されることから注意報を発令する。

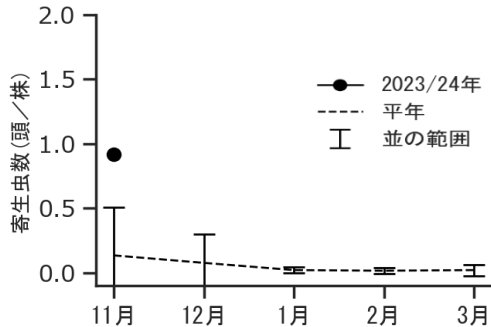


図1 株当たり寄生虫数の今期と平年の推移

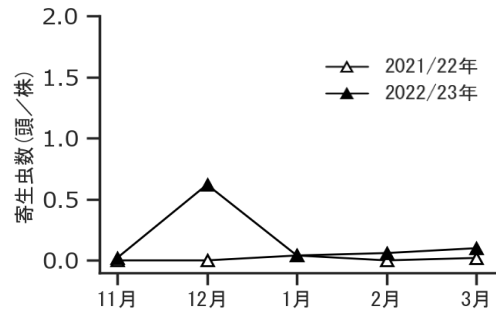


図2 株当たり寄生虫数の過去2年の推移

5 発生生態および被害

モンシロチョウ

- (1) 成虫は体長約20mm、翅を開いた大きさは50~60mmで全体に白色であるが、前翅に2個、後翅に1個の黒色斑紋がある (図3)。
- (2) 卵は高さ約1mmの黄色で、葉裏に1個ずつ点在して産み付けられる (図4)。
- (3) 幼虫は緑色で5齢を経過すると体長30mm程になり (図5)、その後葉裏で蛹となる。
- (4) 年間7~8世代を繰り返す、特に3月~6月、10月~11月に発生が多い。
- (5) 幼虫の食害は主に外葉であるが、多発すると芯部も食害する。結球後の食害は肥大を阻害する。

ハスモンヨトウ

- (1) 成虫は体長15~20mm、翅を開いた大きさは40mm前後であり夜間に活動する (図6)。
- (2) 卵は数百個が卵塊として葉上に産み付けられ、鱗毛で覆われる。ふ化した幼虫は集団で葉を食害し、2齢になると分散をはじめる (図7)。
- (3) 幼虫は体色の変化が著しく、灰緑色から暗褐色など様々である (図8)。6齢を経過すると体長50mm程になり土中で蛹となる。
- (4) 幼虫は多食性で、葉菜類、果菜類、根菜類など多くの作物を加害する。

6 防除上注意すべき事項

モンシロチョウ

- (1) 発生源となりうるアブラナ科雑草の除去および、収穫後の残さ処理に努める。
- (2) 若齢幼虫への薬剤効果が高いため、早期発見に努め防除する。
- (3) 若齢幼虫は葉裏にいるので、薬剤はできるだけ葉裏に散布する。
- (4) 多数の天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

ハスモンヨトウ

- (1) 発生源となりうる雑草の除去および、収穫後の残さ処理に努める。
- (2) ふ化した若齢幼虫の集団や卵塊を発見したら、葉を切り取って処分する。
- (3) 若齢幼虫への薬剤効果が高いため、早期発見に努め防除する。



図3 モンシロチョウ (成虫)



図4 モンシロチョウ (卵)



図5 モンシロチョウ (幼虫)



図6 ハスモンヨトウ (成虫)



図7 ハスモンヨトウ
(卵塊とふ化した幼虫)



図8 ハスモンヨトウ (幼虫)

写真提供：沖縄県植物防疫協会（図3、図4、図6、図8）